

# 平成 28 年度 一般会計予算討論

賛成多数で可決



市内循環ワゴン

## 賛成 後年度負担の軽減と各支援策を評価

青藍会 小林憲人 議員

老朽化する公共施設やインフラへの対応を見越した、合併特例債の枠を残す有利な起債や余剰財源の基金への積み立ては評価できる。

また、若い世代の移住につながる新たな認可保育所の建設費補助や幼稚園就園奨励金などの子育て支援施策を評価する。

さらに、生活相談から連なる生活困窮世帯への支援、福祉総合支援チームの機能強化など、きめ細かな支援体制が整ったことを評価する。

今後は、自主財源確保に向けた企業誘致や売電収入の取り組みなどを更に推進し、持続可能なふじみ野市を創り上げていくために必要な礎が築かれることを期待する。

## 賛成 市民力で魅力あるまちづくりを

公明党 堀口修一 議員

5年後には特例期間を経て地方交付税が本来の算定額となる。そのことを踏まえた財政運営に心していかなければならない。引き続きの改革を止めることなく続行されることを望む。

市制 10 周年を経て、「ふじみ野丸」の新たな船出となる年度であり、そのふじみ野丸を支えていくのは、市民 1 人ひとりの力、市民力である。そして、ふじみ野市には、まだまだ発揮すべき多くの市民力がある。その力を引き出すための「市民大学ふじみ野」や「元気な高齢者」「協働の推進」であり、文化・スポーツにそして健康づくり事業にと、施策が展開された当初予算である事を評価する。

## 反対 社会的弱者に対する支援冷たい

日本共産党 塚越洋一 議員

「公平性」を理由に切り捨てられる社会的弱者への支援、高齢者・低所得者・障がい者・母と子らに対する社会保障政策の不十分さと受益者負担の押し付けは到底認められない。市の有利な条件と安定した財源、職員の力を積極的に生かし、もっと市民の暮らし優先の政策展開ができる予算にすべき。

公立保育所を廃止して、保育所に入れない（いわゆる隠れ待機児童と捉えられる）人が 120 人以上も出たのは、「計算違い」では済まされない。

しかし、迅速な対応による財政運営の改善、学校施設の整備の前倒しやエアコン設置、福祉総合支援チーム、生活道路の整備など評価できるものもある。

## 賛成 福祉政策の着実な前進を評価

無所属 鈴木啓太郎 議員

市内バス運行とお出かけサポート事業で高齢者や障がい者に配慮した市内交通が抜本的に改革された意義は大きい。

また、福祉総合支援チームが増強され、生活支援コーディネーターの配置、市民後見人育成への着手など、人材育成に重点を置いた予算が生まれ、将来の手厚い福祉サービスを予感させる。

さらに、認知症対策など高齢化社会に対応する施策に可能な限り取り組まれている。学校改修をはじめとした子育て支援の充実と合わせ文化、健康づくりの政策など、合併 10 年を経たまちづくりの成熟が示されている。